

ペルー・アンデス学術遠征隊報告

オロヤ紀行

隊長 杉原弘人

帰国の近ずいた8月17日、私たちと案内役兼通訳をかってでた、フアール観光の小森氏の7名は、無理やりに、1台のコレクターボ（乗合タクシー）に乗り、大統領官邸に近い、ペルー中央鉄道の停車場に急いだ。帰国準備のため2時過にやっとベットに入ったので、6時の起床は大変であった。しかし、オロヤ熱の流行地を見ることが、世界一の高所を走る鉄道に乗ることの期待は大きかった。

リマよりオロヤまでは約210 kmで、大阪より愛知県の岡崎に行く位の距離である。日本の鉄道であれば8時間もあれば行けるが、なにぶんにもアンデス山脈をこすので、約6時間もかかる。ペルーの鉄道は日本と同じで、1等・2等の区別があり、2等にはインディオが乗って不潔だということで私たちは1等に乗ることにした。乗車賃は90 ソーレス（1.170 円）で、日本と比較しても余り高くない。

プラットフォームには汽車が入っていて、2等は満員である。1等は2輦で、大部分が欧米人である。車内は日本と同じであるが、座席の間にテーブルがあり、食事にも読書にも便利である。窓は自由に開閉できない。日本のように空気調節のためかと思ったが、そのようでもない。高度の高いところに行くので特別の装置でもあるかと、周囲を見わたしたが、酸素のボンベが車内のすみにたてかけてあるだけである。

8時発とのことだが、どうせ、ペルーのことだから、時間通りには発車しないだろうと、皆と話をしていたところ、正確に8時になると、鐘をカラン・カランと響かせながら、アメリカ製のディーゼル電気機関車は鶴にかすむリマ駅をあとにした。

ペルー中央鉄道はリマ、オロヤ、ワンカヨを結ぶ、アンデス横断鉄道で、沿線に沢山ある鉱山の鉱産物を運搬するため、アメリカ資本により1870年建設された。この建設とペルーの風土病であるオロヤ熱との関係は学問上非常に

CHOSICAからMATUCANAまでのリマツク川がつくる SANTA EULALIA 溪谷はかつて、オロヤ熱の流行地として知られていたところである。1913年、アメリカの昆虫学者TOWNSENDはオロヤ熱を媒介するサシチョウバエをSAN BARTOLOMEの駅で発見し、この昆虫が病気を伝えることを明らかにした。オロヤ熱はMATUCANAを最上限としてここより高度の低いところで流行した。

海拔3200mのSANMATEOに着く頃には車内では昼食の準備がはじまる。テーブルが早速食卓に変わる。25ソーレス(325円)の定食を奮発したので、大いに食欲を満たそうと思うが、あまり食欲がでてこない。腹がすいているのに、腹がいっぱいの感じである。高山病のはじまりである。私たちはすでに高山病の経験をしていた。

6月12日、JIRISHANCA登頂のためリマを出発した私たちは16時40分、4080mのCONOCOCHAの峠に着いた。自動車が停車したので、写真を撮ろうと道路にたつた時、はじめて息苦しさや吐気を感じ、高山病になったことを知った。深呼吸をすると、一時的に気分はよくなるが、動悸の高まりと息苦しさはすぐにもとにもどる。18時、CHIQUIANに着いた時は貧血と寒さのため、体のふるえが止まらず、早速、ベットにもぐりこんで高山病の回復をまった。その後ベースキャンプのNINACOOCHAに行くまで4800mのKAKANAN峠をこしていたし、また、ボリビア5300mにあるCHACALTAYAスキー場にも行っていたので高山病はさほど気にならなくなっていた。

窓の外には雪を頂いたアンデスの山々が見えてきた。いよいよ鉄道では世界最高の4818mの地点も近い。車内では高山病にやられた婦人が酸素ボンベのやつかいになっている。赤んぼは酸素不足で、苦しそうに泣きだす。今まで、周囲の景色をじっと見ていた人たちも横になってしまった。CHICLAに停車した時乗務員にきくと、もう最高点はこえたという。疲労感がどっとおこり、私もねることにした。機関車は速度を増して下りだしたようである。

14時、目的地オロヤに着く。ここは3700mの高さで、銅の鉱山以外なにもない。鉱山はアメリカ系のGERRODE PASCO 会社が経営し、町にはCHVLE病院、中央診療所などがあり、従業員の健康を管理をしてい

る。リマでCHVLE病院のLOPEZ博士への紹介状をもらっていたので、診療所、病院を見学することができた。病院長は先年日本に行ったときいていたので、逢いたいと思ったが、手術中で逢うことができず残念だった。

リマへの帰路はバスを利用した。16時、オロヤをたったバスは悪路と吹雪にあつて、予定通り走れず、リマに着いたのは22時30分であつた。

リマは雪もなく、相変らず雨の降りそうな空模様だった。

'66 スキー用品発売中

野田ボウリングセンター前

ナルセススポーツ(株)本店

大阪市福島区サギス南1-15

TEL(451)0110・3010・3077・6565